

文化財保存科学研究部会

部会長 大庭 卓也

本年度は、筑後地方の伝統工芸を顕彰するために、次のような活動をした。

○「はじめてのくるめがすり」

令和五年六月二十七日、国際文化学科田中優子ゼミナールの学生で、八女郡広川町にある久留米絣製作工房・坂田織物を訪問し、絣製作の様子を見学した。

また、同年七月二十日、久留米絣協同組合から提供を受けた絣の着物を、文学部を中心とした学生若干名（別科生、台湾長庚大学からの留学生を含む）が着用し、同日 900 号館つながるめ一階にて催されていた「KURUME BOOK CAMPUS」に参加。後日、各自が絣の着物の着心地などをレポートにまとめた。

○「伝統工芸の国・筑後」の増刷

明治二十年前後の久留米に誕生した「藍胎漆器」の伝統的な製作技法を守り続ける、井上正道氏（藍胎漆器塗師、井上らんたい漆器〈久留米市小頭町〉代表取締役）と、狩野啓子氏（久留米大学名誉教授）の対談を収録した、第四号「井上正道氏（藍胎漆器塗師）の話を聴く（二）」、第五号「 同 （三） 」を増刷し、各方面に配布した。

○狩野啓子・神本秀爾編『和紙と藍に魅せられて - 筑後の伝統工芸 - 』の寄贈

本書は、本部会の所属員および関係者で分担執筆し、令和四年三月に出版されたが、より広い範囲に流布させるべく、関係者各位、関係諸機関へ寄贈することとし、郵送した。なお、本書は来年度に第二版を出版する計画が進みつつあることも付記しておきたい。

また、本年度の部会の予算にかかわるものではないが、文化財保存の研究の活動としては、クララ紙（古来、防虫効果があるとされる、いわゆる「苦参紙」）を八女和紙職人の溝田俊和氏（溝田和紙工房）に製作を依頼し、本学御井図書館所蔵の軸物類の保存に活用してみたこと、また、久留米の久本表装店に依頼して、御井図書館所蔵の和装本を八女和紙で補修したことなども、ここに記しておきたい。